

試験日 : 2025年2月22日

入試種別 : 2025年度 大学院(修士課程) 入学試験問題

学部・研究科 : 社会学研究科

科目名 : 日本語

解答又は解答例

第1問

問1 ① みずか ② ばんべつ ③ どうかつ ④ げんせつ ⑤ けんめい

問2 ア 心性 ㊦ 不均衡 ㊧ 封建 ㊨ 書記 ㊩ 普及

問3 歴史を見ると、日本語を使うひとびとの間にリテラシーの差があり、それに応じて文字(漢字)の使い方もさまざまであったはずなのに、そうした現実を無視して、ひとびとのリテラシーが均質であったとみなしてしまっている点。

問4 読み書きのリテラシーを獲得した階層が、それによって権力を獲得し維持することで、リテラシー獲得が正当化され、ひとびとが内発的にリテラシーを求めることにつながる、という構造。

第2問

美容整形について、現在整形を希望する、希望しない、あるいは経験した、経験しないにかかわらず、有効なアドバイスを与える者がまず「恋人・配偶者」であり、次に「母」、「同性の友人」と続くという図式は同じである。ただし、「母」のアドバイスについては整形希望・整形経験共に「あり」と「なし」でその有効性に大きな差があらわれる。「あり」とした回答者の方が、「なし」とした回答者よりも「母」の意見を重んじる傾向があると言ってよいだろう。

外見をほめられる頻度については、美容外科手術・美容医療どちらも経験のある人の方が、ない人に比べて「頻繁にほめられる」と「時々ほめられる」の割合が顕著に高い。その一方で「あまりほめられない」「全くほめられない」人においては、「ない」と回答した者の割合が高い。興味深いのは、具体的な数字に開きがあるとは言え、全体的な傾向は美容整形を「希望する・しない」人においてもさほど変わらないことである。もちろん、この調査の形式では「既に美容整形を受けて、かつさらに希

望する人」と「いちども美容整形を受けておらず、整形を希望する人」の区別が不明であるので、断言はしかねるけれども、美容整形についての認識や意識は、経験の有無に大きくは左右されないのではないだろうか。